

nord piano 4

V I R T U A L H A M M E R A C T I O N T E C H N O L O G Y

ユーザー・マニュアル

Nord Piano 4
日本語版

OSバージョン:1.02

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
 - 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから取り外してから行う。
 - 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショート恐れがあります。
 - 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき
- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
 - 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
 - 電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
 - 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
 - 大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
 - 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
 - 振動の多い場所で使用や保管はしない。
 - ホコリの多い場所で使用や保管はしない。
- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。
- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
 - 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
 - 本製品に液体をこぼさない。
- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
 - ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
 - 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
 - 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。
- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
 - 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしなさい。
 - 本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
 - スイッチやつまみなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
 - 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
 - 不安定な場所に置かない。
 - 本製品が落下したりお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
 - 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
 - 本製品の隙間に指などを入れない。
 - お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
 - 地震時は本製品に近づかない。
 - 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
 - 本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

目次

1 はじめに	5	5 プログラム	13
ありがとうございます！.....	5	保存する.....	13
主な特徴.....	5	プログラムを保存する.....	13
NORD ウェブサイトについて.....	5	プログラムに名前を付ける (STORE AS..).....	13
このマニュアルについて.....	5	KBD スプリット.....	13
PDF 版マニュアル.....	5	キーボード・スプリットの設定.....	13
ファクトリー・プリセットに戻す.....	5	スプリット・ポジションを選択する.....	13
OS アップグレード.....	5	スプリット幅の設定.....	13
フリー・サウンド.....	5	[SHIFT]/[EXIT] ボタン.....	14
商標について.....	5	ライブ・プログラム.....	14
2 概要	6	トランスポーズ・オン/セット.....	14
Piano 4 のパネル.....	6	モノ.....	14
プログラム・セクション - 13 ページ.....	6	プログラム・ボタン.....	14
ピアノ・セクション - 10 ページ.....	6	プログラムとは?.....	14
サンプル・シンセ・セクション - 16 ページ.....	6	[PROGRAM] ダイアル.....	14
エフェクト・セクション - 17 ページ.....	6	プログラムリストの [Abc] と [Cat].....	14
3 使い始める	7	数字パッドによるナビゲーション・モード.....	14
接続する.....	7	並べ替え.....	15
パネル・コントロール.....	7	[ORGANIZE] ビューを開く.....	15
ダイアルとノブ.....	7	2つのプログラムを切り替える.....	15
ボタン.....	7	プログラムを移動する.....	15
[SHIFT] ボタン.....	7	MIDI LED インジケーター.....	15
ディスプレイ上のボタン.....	7	PANIC.....	15
プログラム.....	7	6 サンプル・シンセ	16
プログラムを選択する.....	7	オン/オフの切り替えとレベルの選択.....	16
リスト・ビュー.....	8	OCTAVE UP/DOWN.....	16
プログラムをエディットする.....	8	[SUSTAIN] と [VOLUME].....	16
別のピアノ・サウンドを選ぶ.....	8	サンプル・シンセについて.....	16
メモリー・プロテクトをオフにする.....	8	サンプルを選択する.....	16
プログラムを保存する.....	8	リスト・ビュー.....	16
ライブ・モード.....	8	サウンドを形成する.....	16
エフェクトをオンにする.....	9	DYNAMICS.....	16
サンプル・シンセを含むレイヤー.....	9	AMP.....	16
スプリットを作成する.....	9	FILTER.....	16
スプリット・クロスフェード (スプリット幅) を設定する.....	9	[ATTACK]、[SUSTAIN]、[DECAY/RELEASE].....	16
4 ピアノ	10	7 エフェクト	17
オン/オフの切り替えとレベルの選択.....	10	エフェクトをオンにする.....	17
OCTAVE UP/DOWN.....	10	エフェクト 1.....	17
[SUSTAIN] と [VOLUME].....	10	TREM (トレモロ).....	17
ピアノ・サウンドについて.....	10	PAN (オート・パン).....	17
ピアノ・サイズについて.....	10	RM (リング・モジュレーション).....	17
ピアノ・インフォ.....	10	CTRL PED.....	17
ピアノ・セレクト.....	10	エフェクト 2.....	18
カテゴリとモデル.....	10	PHAS 1&2 (フェイザー).....	18
リスト・ビュー.....	11	FLANG (フランジャー).....	18
ストリング・レゾナンスとソフト・リリース.....	11	CHOR 1&2 (コーラス).....	18
ストリング・レゾナンス.....	11	VIBE (ヴァイブ).....	18
ソフト・リリース.....	11	DEEP.....	18
Nord Triple Pedal.....	11	ディレイ.....	18
ペダル・ノイズ.....	11	イコライザー.....	18
ハーフ・ペダリング.....	11	AMP/COMP.....	18
ソステヌート.....	12	アンプ・モデル.....	18
ソフト・ペダル.....	12	DRIVE.....	18
イコライザー.....	12	COMP.....	18
クラビネット.....	12	リバーブ.....	19

8	MIDI	20
	MIDI 機能.....	20
	MIDI チャンネル.....	20
	本機での演奏を MIDI シーケンサーや DAW にレコーディングする.....	20
	MIDI メッセージ.....	20
	ノート・オン/オフ.....	20
	コントローラー.....	20
	プログラム・チェンジ.....	20
	ローカル・コントロールのオン/オフ.....	20
	PANIC.....	20

9	NORD SOUND MANAGER	21
	NORD SOUND MANAGER について.....	21
	動作環境.....	21

10	メニュー	22
	システム・メニュー.....	22
	1 - MEMORY PROTECT.....	22
	2 - NUMPAD PROGRAM SELECT.....	22
	3 - GLOBAL TRANSPOSE.....	22
	4 - FINE TUNE.....	22
	5 - OUTPUT ROUTING MODE.....	22
	6 - SUSTAIN PEDAL TYPE.....	22
	7 - CONTROL PEDAL.....	22
	TYPE.....	22
	GAIN.....	22
	サウンド・メニュー.....	22
	1 - PIANO PEDAL NOISE LEVEL.....	22
	2 - PIANO STRING RES LEVEL.....	22
	MIDI メニュー.....	22
	1 - LOCAL CONTROL.....	22
	2 - MIDI CHANNEL.....	23
	3 - CONTROL/PROGRAM CHANGE MODE.....	23
	MIDI CONTROL CHANGE.....	23
	MIDI PROGRAM CHANGE.....	23
	4 - TRANSPOSE MIDI AT.....	23

11	接続について	24
	オーディオの接続.....	24
	HEADPHONES.....	24
	LEFT OUT、RIGHT OUT.....	24
	MONITOR IN.....	24
	MIDI の接続.....	24
	MIDI IN.....	24
	MIDI OUT.....	24
	USB 接続.....	24
	ペダル接続.....	24
	SUSTAIN PEDAL.....	24
	VOL/CTRL PEDAL.....	24

II	付録：MIDI コントローラー・リスト	25
-----------	----------------------------------	----

III	索引	26
------------	-----------------	----

	仕様.....	27
--	---------	----

1 はじめに

ありがとうございます！

Nord Piano 4 をお買い上げいただきありがとうございます！ Nord Piano 4 は、使いやすさや持ち運びのしやすさを損なうことなく、ステージ用キーボードとして最も妥協のないピアノ演奏を実現するように設計されています。トリプル・センサー・キーボードとバーチャル・ハンマー・アクション・テクノロジーがかつてないほどの臨場感と制御性をもたらし、幅広い演奏技術を用いたピアノ演奏を可能にします。綿密にサンプリングされたピアノとキーボードのサウンドを集めた Nord Piano Library を無料で利用でき、また、これらのサウンドは今後も増え続けていきます。これにより、Nord Piano 4 はこの先も長期にわたり演奏者にインスピレーションを与え続けていくことでしょう。

主な特徴

Nord Piano 4 には次のような主な特徴があります。

- グランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、デジタル・ピアノ、クラビネットやハーブシコードなどのサウンドに加え、ピアノ・サウンドを組み合わせる豊かな音色を作り出せるレイヤー・カテゴリーを搭載したピアノ・セクション。ピアノ・セクションのメモリー容量は 1GB。
- 88 鍵トリプル・センサー・グランド・ウェイティッド・アクション・キーボード。
- バーチャル・ハンマー・アクション・テクノロジー。
- 512MB のサンプル・メモリーを搭載し、直感的な操作が可能なエンベロープ・コントロールとダイナミック・コントロールを備えたサンプル・シンセ・セクション。
- 幅広く、自由度の高い音作りをサポートするエフェクト・セクション。
- プログラムを切り替えてもサスティン・ノートが途切れないシームレスな切り替え（シームレス・トランジション）。
- スプリット幅の調節もできるキーボード・スプリット機能により、スプリット・ポイントでサウンドのスムーズなクロスフェードを設定可能。

NORD ウェブサイトについて

Nord ウェブサイト (<http://www.nordkeyboards.jp/>、nordkeyboards.com (英文)) では、以下をご利用いただけます。

- » Nord Piano 4 やその他の Nord 製品に関する情報
- » 最新 OS バージョンのダウンロード
- » Nord Sound Manager、Nord Sample Editor、各種ドライバーなどのフリー・ソフトウェアのダウンロード
- » Nord Piano Library サウンドの無償ダウンロード
- » Nord Sample Library サウンドの無償ダウンロード
- » Nord に関するニュースや動画を配信する Nord World
- » ユーザー・マニュアルのダウンロード
- » nordkeyboards.com/tutorials からチュートリアルを閲覧可能

ぜひ、Facebook、Instagram、Twitter、YouTube で Nord Keyboards をフォローしてください。SNS の投稿には、Nord 公式ハッシュタグ #iseenord をお気軽にご利用ください。

このマニュアルについて

本マニュアルはリファレンス・マニュアルとして使用できるように制作しました。また、実際に各種機能を使用するときの便利なヒントなどもご紹介しています。

PDF 版マニュアル

本マニュアルの PDF 版は、Nord ウェブサイトの Nord Piano 4 セクションからダウンロードできます。

ファクトリー・プリセットに戻す

工場出荷時のプログラム、サンプル、ピアノのデータは Nord Sound Manager のバックアップ・ファイル形式で Nord ウェブサイトからダウンロードできます。また、任意の時点の状態に戻す必要がある場合に備えて、インストゥルメント全体およびそのインストゥルメントの工場出荷時の状態をバックアップしたのもをご用意しています。

OS アップグレード

Nord Piano 4 の最新 OS バージョンは、Nord ウェブサイトからいつでもダウンロードできます。Nord ウェブサイトに定期的にアクセスして最新情報をチェックしてください。

フリー・サウンド

Nord Piano 4 では、すべてのピアノやサンプルを入れ替えることができます。入れ替え作業は、Nord ウェブサイトから無償でダウンロードできる Nord Sound Manager アプリケーションを使用して行います。

また、Nord Piano 4 は次々と新たなサウンドが追加されている Nord Piano Library や Nord Sample Library と互換性があります。追加されたサウンドは、随時、Nord ウェブサイトのサウンド・ライブラリー・セクションから無償でダウンロードできます。

商標について

本マニュアルに記載のあらゆる商標やブランド名はそれぞれの所有者が保有する商標であり、Clavia との一切の関係はありません。また、それらの商標やブランド名は本機の機能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

2 概要



プログラム

ピアノ

サンプル・シンセ

エフェクト

PIANO 4 のパネル

Nord Piano 4 は音楽的な想像力を掻きたてつつ、使いやすい楽器となるよう設計されています。ここでは、各パネル・セクションについて簡単に紹介します。

プログラム・セクション - 13 ページ

Nord Piano 4 のプログラムには、サウンド・エンジンとエフェクトの設定がすべて含まれています。Nord Piano 4 の左側にあるプログラム・セクションでは、プログラムの呼び出しや保存のほか、様々な演奏機能や設定メニューを操作できます。このセクションには大型の有機 EL (OLED) ディスプレイがあり、選択したピアノ・サウンドやサンプル・サウンドの名前などが表示されます。

ピアノ・セクション - 10 ページ

Nord Piano 4 では、今後も増え続ける Nord Piano Library のサウンドを利用できるほか、グランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、さらにはデジタル・ピアノやレイヤー・サウンドなど、幅広いピアノ・サウンドとキーボード・サウンドがプリセットされています。Nord Piano Library の最新のサウンドは定期的に Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) にアップロードされ、無償でダウンロードできます。

ピアノ・セクションのパネル・コントロールには、高度なストリング・レゾナンス機能 (アコースティック・ピアノ用) をオンにしたり、キーボード・ベロシティ・レスポンスを調節したり、専用のイコライザー設定を使用してピアノ・サウンドの特性を素早く変化させたりするためのボタンがあります。

付属の Nord Triple Pedal を接続すると、機械式のダンパー・ペダルの音を再現するダイナミック・ペダル・ノイズ機能をオンにできます。また、Triple Pedal を使用すると、ハーフ・ペダリング奏法が可能になるほか、ウナ・コルダやソステヌート・ペダルを使って豊かな演奏を行えるようになります。

サンプル・シンセ・セクション - 16 ページ

Nord Piano 4 を購入すると、Mellotron や Chamberlin などの有名なビンテージ・サウンドを含み、世界有数のサウンドを誇る膨大な無償のライブラリー、Nord Sample Library にアクセスできます。Nord Piano 4 には多くのサンプルがプリセットされています。サンプル・シンセ・セクションでは、これらのサンプルをブラウズしたりロードしたりすることができます。このパネルから、サンプルの特性やレスポンスを調節するための多くの機能に直接アクセスできます。

エフェクト・セクション - 17 ページ

エフェクト・セクションでは、幅広いクラシック・エフェクトを簡単にアサインできます。

エフェクト 1 およびエフェクト 2 ユニットには、伝説的なコンパクト・エフェクターやエフェクト・ユニットをモデルにしたトレモロ、コーラス、フェイザーなどの主要なモジュレーション・エフェクトが用意されています。ディレイ・エフェクトは、微妙なアンビエンスやスラップバック・エフェクト、さらには限りないサウンドスケープまで、あらゆるエフェクトに使用できます。

アンプ/コンプレッサー・セクションには、クラシックなアンプ・シミュレーション、チューブ・スタイルのオーバードライブ、力強いコンプレッサーなどのエフェクトが用意されています。中心周波数可変タイプのミッド・レンジを備えた多用途なイコライザーは、Nord Piano 4 のあらゆるサウンド・エンジンに適用できます。

そして最後に、豊かなリバーブは、オプションで [BRIGHT] モードも選択でき、狭い部屋や広いホールなど、様々な空間の響きを瞬時にシミュレートできます。

3 使い始める

ここから Nord Piano 4 の最も基本的な機能についてご紹介し、最も一般的なタスクとシナリオの一部を順を追って説明します。

接続する

- ① 電源コードを本機に接続し、コンセントに接続します。それからサステイン・ペダルやヘッドフォン、またはアンプ、ミキサーなどのオーディオ機器に接続します。
- ② 本機の電源を入れてから、オーディオ機器の電源を入れます。電源を入れるときはそれぞれの機器のボリュームにご注意ください。

接続に関する詳細は、24 ページもご参照ください。

パネル・コントロール

ダイヤルとノブ



Nord Piano 4 では、開始位置と終了位置が固定されていないノブをダイヤルと呼び、パラメーターや設定を切り替えるのに使用します。[PROG/MENU] ダイヤルもその 1 つです。このマニュアルでは、ダイヤルをエンコーダーと呼ぶこともあります。



Nord Piano 4 では、多くのパラメーターにボリューム・タイプのノブが使用されています。プログラムをロードしたときにはノブの位置とパラメーターの実際の値が一致していないことが多いですが、ノブを回すと関連付けられたパラメーターの値がノブの位置を瞬時にキャッチしてノブの位置と一致するようになります。

[SHIFT] ボタンを押しながらノブを回すと、そのパラメーターの設定値を変更することなく現在の設定値を確認できます。

ボタン



セレクター・ボタンは、丸や三角形の LED が付いたいくつかの選択肢から 1 つを選択するパラメーターに使用されます。ボタンを数回押して選択肢を順に切り替えて選択できます。



[ON/OFF] ボタンは、機能のオン/オフやエフェクトのように一連の機能をまとめてオン/オフするときに使用します。オン/オフの状態はボタンの近くにある LED で示されます。また、ソースやゾーンを示す LED もあります。

- ① 図のようなエフェクトのオン/オフ・ボタンにはセレクター機能もあります。一度押すとエフェクトがオンになり、すぐにもう一度押すとソースが切り替わります。

[SHIFT] ボタン



Nord Piano 4 のパネル・コントロールの多くはもう 1 つの機能を備えており、それらの機能は各ボタンのすぐ下にプリントされています。これらの機能を使用するには、[SHIFT] ボタンを押しながらそのコントロールを操作します。

[SHIFT] ボタンは、メニューを終了するときや保存操作を途中で中止するとき [EXIT] ボタンとしても使用します。

ディスプレイ上のボタン

1 つのメニュー・ページまたは設定ページ、あるいは [ORGANIZE] ビュー（下図を参照）には、関連する複数のオプションが含まれていることがあります。この場合、ディスプレイ上のボタンを使用して設定または実行するタスクを選択できます。ディスプレイの下部に表示されるこれらのボタンは、[PROGRAM] ボタンの [1] ~ [4] を使用して選択できます。例として、以下の場合に [PROGRAM 3] ボタンを押すと、スワップ操作の対象として「プログラム A : 12」が選択されます。



プログラム

プログラム・エリアはパネル中央にあり、その中央には有機 EL (OLED) ディスプレイがあります。パネル上のすべてのパラメーターを 1 つのプログラムに保存できます。Piano 4 のプログラム・メモリーには 400 個のプログラムをストックしておけます。

プログラムは「A」～「P」のラベルが付いた 16 個のバンクに分けられており、すべて自由に書き換えたり移動したりできます。

- ① プログラム・メモリーは、工場出荷時のプログラムを使用しているとしても元の状態に戻すことができます。工場出荷時のプログラムはすべて Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) からダウンロードできます。

プログラムを選択する

- ① プログラムはディスプレイの下にある 5 つの [PROGRAM] ボタンを押すか、[PROGRAM] ダイヤルを回して選択できます。Nord Piano 4 のプログラム・バンクには 25 個（プログラム・ページ 5 ページ分）のプログラムを登録できます。

リスト・ビュー

下に [LIST] と書かれた [PROGRAM] ダイアルなどのダイアルでは、便利リスト・ビューを使用できます。

- ① [SHIFT] ボタンを押しながら [PROGRAM] ダイアルを回すと、すべてのプログラムのリスト・ビューが表示されます。
- ② [PROGRAM] ダイアルを使用してプログラムを確認します。リスト・モードでは 26 個すべてのプログラム・バンクにアクセスできます。



- ③ ディスプレイ上の [Abc] ボタンと [Cat] ボタンをそれぞれ試しに押してみてください。Abc モードではすべてのプログラムが名前順にリスト表示され、Cat モードではカテゴリー順にリスト表示されます。
- ④ もう一度 [SHIFT] ボタンを押すとリスト・ビューが終了します。
[PIANO] ダイアルと [SAMPLE] ダイアルのリスト・ビューも同じように機能します。

プログラムをエディットする

プログラムのエディットとは、ノブを回したりボタンを押したりして設定値を変更する、とても簡単な操作のことです。ちょっとやってみましょう。

- ① 最初のプログラム（ピアノ・ベースのプログラム）を選択し、これをエディットしてみましょう。
ピアノ・セクションのパネルはプログラム・エリアの右側にあります。プログラム・エリアのディスプレイのピアノ・セクションには選択したピアノ・サウンドの名前が表示されます。

別のピアノ・サウンドを選ぶ

- ② [PIANO SELECT] ダイアルを回してピアノ・サウンドを閲覧します。サウンドはピアノのタイプによって分類されています（グラウンドやアップライトなど）。
- ③ [SHIFT] ボタンを押しながら [PIANO SELECT] ダイアルを回すとリスト・ビューが表示されるので、その中からピアノ・サウンドを選択してみましょう。もう一度 [SHIFT] ボタンを押すとリスト・ビューが終了します。

パネルでパラメーターの設定を変更すると、ディスプレイに表示されているプログラム・ナンバーの後ろに「E」が付きます。これは、プログラムがエディット中で、まだ保存されていないことを示しています。保存操作を行う前に別のプログラムをロードすると、それまでのエディット内容は消えてしまい、次に同じプログラムを選択したときにはエディットする前の設定が表示されます。

メモリー・プロテクトをオフにする

Nord Piano 4 はメモリーがプロテクトされた状態で出荷され、工場出荷時のプログラムが誤って上書きされないようになっています。メモリー・プロテクトはシステム・メニューにある設定を切り替えることで、オフにすることができます。

- ① [SYSTEM] ボタン ([SHIFT] + [PROGRAM 1]) を押します。

- ② メモリー・プロテクト（「Memory Protect」）はシステム・メニューの最初に表示される設定です。ディスプレイに別の設定が表示されている場合は、ディスプレイ上のボタンを使用して「Memory Protect」を選択します。
- ③ [PROGRAM] ダイアルを回してこの設定をオフに変更します。
- ④ [EXIT] ([SHIFT]) ボタンを押してシステム・メニューを終了します。
❶ この設定は、他のほとんどのシステム設定と同様に、再び変更されるまでは永続的に保存されます。

メニュー設定について詳しくは、22 ページをご参照ください。

プログラムを保存する

- ① ディスプレイの右上にある [STORE] ボタンを 1 回押し、現在のプログラムの保存操作を始めます。
- ② [STORE] ボタンの LED が点滅し、プログラムの保存先を指定する画面がディスプレイに表示されます。



- ③ エディットしたプログラムを同じプログラム番号に上書き保存する場合は、[STORE] ボタンをもう一度押します。別のプログラム番号に保存する場合は、ダイアルや [PROGRAM] ボタンを使用して別の場所を選択します。

選択した場所のプログラムは、上書き保存する前にキーボードで試聴することができます。

- ④ プログラムの保存先を決めたら、[STORE] ボタンをもう一度押し、保存操作を確認します。
❶ [STORE] ボタンを押す前に [SHIFT]/[EXIT] ボタンを押すと保存作業を中止します。

保存操作およびプログラムに名前を付ける方法については、13 ページのプログラムのチャプターをご参照ください。

ライブ・モード

他のプログラムとは異なり、5 つのライブ・プログラムに対して行われたエディットは、手動の保存操作を行わなくても自動で保存されます。

- ① [LIVE MODE] ボタンを押して [PROGRAM] ボタンを押すと、5 つのライブ・プログラムを切り替えることができます。
- ② 選択したプログラムに対して、いずれかのエフェクト・セクションをオンにするなどのエディットを行います。
- ③ 別のライブ・プログラムを選択したあとエディットしたライブ・プログラムに戻ると、エディットが自動的に保存されたことがわかります。
- ④ [LIVE MODE] ボタンをもう一度押すと、ライブ・モードを終了し、プログラム・バンクに戻ります。

ライブ・モード・プログラムを通常のプログラムとしてプログラム・バンクに保存する場合は、[STORE] ボタンを押したあとに、[LIVE MODE] ボタンを押す（ライブモードを抜ける）ことで保存できます（前述の説明もご参照ください）。反対に、[LIVE MODE] ボタンを押してライブ・プログラムのいずれかを選択すれば、プログラムをライブ・モードのいずれかのメモリーに保存することもできます。

エフェクトをオンにする

- ① 最初のプログラム (Royal Grand 3D) が選択されていることを確認します。
- ② リバーブの **[ON]** ボタンを押してリバーブをオンにします。
- ③ リバーブ・セクター・ボタンの上にある **[DRY WET]** ノブでリバーブの量を調整します。
- ④ **ディレイの [ON OFF]** ボタンを押してディレイ・エフェクトをオンにします。
- ⑤ ボタンの上の LED は、どのサウンド・エンジンがそのエフェクトにルーティングされているかを示します ([PIANO] または [SYNTH])。[PIANO] LED が点灯していない場合は、[PIANO] LED が点灯するまで **[SHIFT]** ボタンとディレイの **[SOURCE]** ボタンを押します。

[ON/OFF]/[SOURCE] ボタンをダブルクリックすると、エフェクト・ユニットのソースを素早く切り替えることができます。
- ⑥ **[TEMPO]**、**[FEEDBACK]**、**[DRY WET]** のコントロールを使って、ディレイ・エフェクトの特性や強さを変更してみましょう。

サンプル・シンセを含むレイヤー

- ① サンプル・シンセ・セクションを **オン** にします。
- ② **[SAMPLE SELECT]** ダイアルを回してサンプル・バンクからストリング・サウンドを選択します。ディスプレイの一番下にサンプルの場所と名前が表示されます。
- ③ **[LEVEL]** コントロールを使用して、そのストリングに適したサウンド・レベルを設定します。

サンプルを選択すると、そのサンプル・シンセのエンベロープ (アタック、ディケイ/サステイン/リリース)、ダイナミクス、フィルター設定のプリセットもロードされます。これらのパラメーターは必要に応じて手動で調節することもできます。これらのコントロールについて詳しくは、16 ページ以降のサンプル・シンセのチャプターをご参照ください。

スプリットを作成する

- ① ピアノ・セクションとサンプル・シンセ・セクションがどちらもオンになっていることを確認します。
- ② プログラム・エリアのディスプレイ上方の最上段にある **[KBD SPLIT]** ボタンを押します。**[PNO/SYNT]** と **[SYNT/PNO]** という 2 つの構成があります。ここでは **[PNO/SYNT]** に設定します。これは、ピアノ・サウンドがキーボードの左側に配置され、サンプル・シンセ・サウンドが右側に配置されることを意味します。
- ③ スプリット・ポイントの位置を調節するには、**[SET SPLIT]** ボタン (**[SHIFT]** + **[KBD SPLIT]**) を押します。



- ④ スプリット・ポイントには、位置と幅という 2 つの設定があります。位置設定がフォーカスされていることを確認し (ディスプレイ上の **[Pos]** ボタンを押す)、ダイアルを使用してスプリット・ポイントを C4 に設定します。

これでキーボードが 2 つのゾーンに分割されます。スプリット・ポイントは鍵盤上の緑の LED で表されます。

ピアノ・セクションとサンプル・シンセ・セクションの **[OCTAVE UP]** または **[OCTAVE DOWN]** を使用すると、割り当てられる音の範囲が変わります。

スプリット・クロスフェード (スプリット幅) を設定する

最後の手順として、スプリットしたピアノとサンプル・シンセのサウンドがなめらかに切り替わるようにスプリット・ポイントを調節しましょう。

- ⑤ ディスプレイ上の **[Width]** ボタンを押します。これでスプリット・ポイントのスプリット幅を調節できます。
- ⑥ ダイアルを回して幅の値を「ラージ」(Lrg) に設定します。
- ⑦ **[EXIT]** (**[SHIFT]**) ボタンを押してスプリット・メニューを終了します。

これで、スプリット・ポイントをまたいで演奏すると、低音部と高音部の間に「クロスフェード」がかかるようになります。キーボードの上のスプリット LED が赤く点灯します。これは、広いスプリット幅が使用されていることを表しています。狭いスプリット幅が使用されている場合は LED が黄色く点灯し、スプリット幅が「オフ」に設定されている場合は LED が緑色に点灯します。

4 ピアノ



オン/オフの切り替えとレベルの選択

ピアノ・セクションは **[ON]** ボタンを押してオン/オフを切り替えます。ピアノ・サウンドのボリュームは、**[LEVEL]** ノブでコントロールします。

OCTAVE UP/DOWN

[OCTAVE UP] ([SHIFT] + [EQUALIZER]) を押すとピアノ・セクションを1オクターブ上 (+12半音) にトランスポートでき、**[OCTAVE DOWN]** ([SHIFT] + [PEDALS]) を押すと1オクターブ下 (-12半音) にトランスポートできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を1オクターブ上または下にトランスポートできます。スプリットがオンになっている場合、トランスポートできる値は異なりますが、ピアノの全範囲にいつでもアクセスできます。

[SUSTAIN] と [VOLUME]

[SUSTAIN] を押すと、接続したサスティン・ペダル (Nord Triple Pedal など) をピアノ・セクションで使用できるようになります。接続したペダルの設定方法について詳しくは、22 ページのメニューのチャプターをご参照ください。

[VOLUME] を押すと、接続したコントロール・ペダルをピアノ・セクションのボリューム・コントロールとして割り当てることができます。

サスティン・ペダルとボリューム・ペダルは同時にオンにすることができ、その場合は両方の LED が点灯します。

ピアノ・サウンドについて

Nord Piano 4 のピアノには 6 種類のカテゴリーがあり、各カテゴリーにはさらにいくつかのインストールメント・モデルがあります。無償のアプリケーション Nord Sound Manager を使用すると、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) から新たなピアノ・サウンドをダウンロードして Nord Piano 4 に追加できます。

工場出荷時の状態では、厳選されたアコースティック・ピアノ、エレクトリック・ピアノ、デジタル・ピアノなどの高品位サウンドとピアノ・レイヤーが内蔵されています。これらのサウンドとピアノ・レイヤーは、サウンドやレスポンスのニュアンスができる限りオリジナルの楽器に近づくよう、膨大な手間をかけて作成されました。

ピアノ・サウンドに使用できるメモリー・サイズは 1GB です。

① Nord Sound Manager を使用してピアノ・インストールメントを本機へダウンロードすると、そのインストールメントのカテゴリーに応じたメモリー・ロケーションに自動的に保存されます。

ピアノ・インストールメントを使用するプログラムには、そのピアノ・インストールメントのカテゴリーやモデル・ナンバーを識別するデータが入っています。そのため、Nord Piano 4 にダウンロードされていないピアノを必要とするプログラムを選択すると、ディスプレイに「Piano not found」と表示されます。このような場合、同じカテゴリーまたは別のカテゴリーの別のモデルを選び直すか ([PIANO SELECT] ダイアルを使用)、Nord Sound Manager を使用して必要なインストールメントを本機にダウンロードしてください。

ピアノ・サイズについて

Nord Piano Library のサウンドには、最大で 4 種類のサイズがあります。以下の表は、各サイズの機能の違いをまとめたものです。

	Sml	Med	Lrg	XL
ステレオ・サンプリング	✓	✓	✓	✓
詳細なベロシティ・マッピング	✓	✓	✓	✓
中音域のストリング・レゾナンス		✓		
全音域のストリング・レゾナンス			✓	✓
鍵盤全体にマッピング				✓

スモール (Sml) のピアノ・ファイルにはストリング・レゾナンスが収録されていないため、使用するピアノ・メモリーの容量が最も小さくなります。

ミディアム (Med) には、演奏上重要な位置を占める中音域のストリング・レゾナンスが収録されています。

ラージ (Lrg) には、すべての音域でストリング・レゾナンスが収録されています。

また、エクストラ・ラージ (XL) バージョンを利用できるピアノも数多くあります。XL バージョンではサウンドが鍵盤全体にマッピングされるため、Nord の各キーがオリジナル楽器の鍵盤に正確に対応します。そのため、サイズは当然大幅に増加します。

ピアノ・インフォ

[PIANO INFO] ボタン ([SHIFT] + [ON]) を押すと、バージョン・ナンバーやピアノ・ファイルの正確なサイズなど、現在選択しているモデルに関する詳細な情報が表示されます。

ピアノ・セレクト

カテゴリーとモデル

使用するピアノ・サウンドは **[PIANO SELECT]** ダイアルで選択できます。ピアノ・サウンドは全部で 6 つのカテゴリーに分類されます。

カテゴリー	内容
Grand	アコースティック&エレクティック・グランド・ピアノ
Upright	アップライト・ピアノ
Electric	エレクティック・ピアノ
Clav/Hps	クラビネットとハーブシコード
Digital	デジタル・ピアノ・サウンド
Layer	レイヤード・ピアノ・サウンド

- ❶ 設定したピアノ・カテゴリーを別のピアノ・カテゴリーに変更することはできません。

選択したモデルの名前は、プログラム・セクションのディスプレイの一番下にある鍵盤アイコンの隣に表示されます。

クラビネットについて

オリジナルの Clavinet D6 では、ロッカー・スイッチでピックアップの組み合わせを選択できました。Nord Piano 4 でもこの機能は忠実に再現され、オリジナルの Clavinet D6 のピックアップはすべて選択できます。

ピックアップ・タイプ

Clav Model A : 「ネック」側のピックアップを使用したソフトなサウンド。

Clav Model B : 「ブリッジ」側のピックアップを使用したブライトなサウンド。

Clav Model C : 両方のピックアップを同位相で出力したパワフル・サウンド。

Clav Model D : 両方のピックアップを使用し、位相を反転させ、基音成分がほとんど打ち消された線の細いサウンド。

リスト・ビュー

[SHIFT] ボタンを押しながら [PIANO SELECT] ダイアルを回すと、ピアノ・サウンドのリスト・ビューがオンになります。



リストでは現在選択しているモデルに四角い枠が表示され、前後のモデルも確認できます。

ピアノ・リストの一番上の行には、現在選択しているモデルのカテゴリー名（ここでは「Grand」）、そのタイプのモデル数（5）、そのモデルのインデックス（2）が表示されます。

デフォルトでは番号順に並んでいますが、ピアノは [Cat] ボタンをオンにすることでカテゴリー別に表示することもできます。また、[◀] ボタンと [▶] ボタンを使用すると、カテゴリーの表示を素早く切り替えられます。



[Cat] ボタンを押すと、利用できるすべてのカテゴリーをブラウズしてリストから選択できます。

KBD TOUCH



Nord Piano Library のピアノには非常に幅広いダイナミクス・レンジが収録されており、好みや演奏の流れに合わせてダイナミクス・レスポンスを調節できます。

1つ目の [KBD TOUCH] 設定 (1) では、柔らかく表情豊かに演奏できます。[KBD TOUCH] の設定を増やすと (2、3)、大きな音で演奏しやすくなります。

ストリング・レゾナンスとソフト・リリース

ストリング・レゾナンス

ストリング・レゾナンスとは、すべての弦または一部の弦が、演奏中の弦の基音や倍音に共鳴する音響現象のことです。

[STRING RES] をオンにすると、グランド・ピアノやアップライト・ピアノの内部で起きている豊かで素晴らしい音響現象がすべての音域で再現されます。

また、サスティン・ペダルを踏み、すべてのダンパーが弦から離れることで、レゾナンス・エフェクトがさらに増大します。

ストリング・レゾナンス・エフェクトのサウンド・レベルは、サウンド・メニューで設定できます（22 ページを参照）。

- ❶ ストリング・レゾナンス機能をサポートしていないピアノを選択した場合、この機能は使用できません。例えば、スモール (Sml) バージョンのグランド・ピアノ、アップライト・ピアノ、エレクティック・ピアノ、デジタル・ピアノ、レイヤー・ピアノはこの機能をサポートしていません。

ソフト・リリース

[SOFT RELEASE] をオンにすると、ピアノ・サウンドのリリースがわずかに長く、不明瞭になります。これは、アコースティックやエレクティック・ピアノのダンパー・テンションを調整するのと同じ効果となります。また、リリースのかかり具合はノートごとにタッチの強弱に反応するようになっています。

- ❶ クラビネットやハーブシコードなどの一部のピアノ・タイプはソフト・リリース機能に対応していません。対応していないピアノ・タイプを選択すると、[SOFT RELEASE] ボタンが無効になります。

NORD TRIPLE PEDAL

付属の Nord Triple Pedal があれば、次の奏法や機能を使用できます。

ペダル・ノイズ

ペダル・ノイズ機能は、アコースティック・ピアノでダンパー・ペダルを操作したときの機械的なノイズを再現するものです。ノイズの大きさは、サスティン・ペダルを踏む強さに応じて動的に調整されます。ペダル・ノイズの大きさはサウンド・メニューで設定できます（22 ページを参照）。

ハーフ・ペダリング

Nord Triple Pedal のサスティン・ペダルを使用すると、ハーフ・ペダリング奏法で演奏できます。つまり、ピアノの「仮想」ダンパーが完全に上がっても下がってもいない状態になり、「ややダンパーがかかった」サウンドになります。

ソステヌート

ソステヌート・ペダル（中央）を踏むと、ペダルを踏んだときに押さえている音にのみサステインがかかり、そのほかの音にはサステインがかかりません。

ソフト・ペダル

左のペダルはソフト・ペダル、別名ウナ・コルダです。このペダルを踏むと、すべての音の音量がわずかに下がり、やや落ち着いた音色になります。

イコライザー



[EQUALIZER] は、選択したピアノ・サウンドの特性を瞬時に変更できる非常に便利なツールです。

[SOFT] に設定すると、主に高周波数レンジが除去されるため、低周波数部分が強調されて落ち着いたメロウなサウンドになります。

[MID] モードに設定すると、高周波数レンジと低周波数レンジの両方が抑えられ、ミッド・レンジが強調された鋭いサウンドになります。

[BRIGHT] モードに設定すると、高周波数レンジが強調されて明るく澄んだサウンドになります。

[DYN0 1] と **[DYN0 2]** は、今後の OS リリースで使用できるようになります。

クラビネット

オリジナルのクラビネットでは、ピックアップ・セレクター以外に 4 つのロッカー・スイッチがあり、内蔵 EQ をコントロールできました。これらの EQ の組み合わせのほとんどを Nord Piano 4 でも使用できます。**[EQUALIZER]** ボタンを使用すると、組み合わせを自由に選択できます。

5 プログラム



プログラム・セクションでは、プログラムの保存やロードなどの演奏機能、ライブ・プログラム、キーボード・スプリット機能などを使用できます。さらに、システム、サウンド、MIDIなどの設定メニューにもアクセスできます。各メニューとその設定については、22ページ以降のチャプターで詳しく説明します。

保存する



[STORE] ボタンを使用すると、エディットしたプログラムをプログラム・バンク内の任意の場所に保存できます。選択した場所にプログラムが存在する場合、既存のデータは上書きされます。

- ❶ プログラムが誤って上書きされないよう、Nord Piano 4の工場出荷時にはメモリーがプロテクトされています。プログラムを保存できるようにするには、システム・メニューで [Memory Protect] パラメーターを「Off」に設定する必要があります。詳しくは22ページをご参照ください。

プログラムを保存する

名前を変更せずにプログラムを保存する手順は以下のとおりです。

- ❶ **[STORE]** ボタンを1回押します。すると、[STORE] LEDが点滅し始め、プログラムの名前と場所がディスプレイに表示されます。



- ❷ 別の保存場所を選択するには、ダイヤルと **[PROGRAM]** ボタンの **[1] ~ [5]** を使用します。また、**[LIVE MODE]** ボタンを押して希望するライブ・プログラムを選択すると、いずれかのライブ・プログラムの場所にプログラムを保存することもできます。選択した保存場所にあるプログラムは、キーボードを弾いていつでも確認できます。
- ❸ 保存操作を途中で中止するには **[EXIT]** ボタンを押します。
- ❹ 適切な保存場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** ボタンを押して操作を確定します。

プログラムに名前を付ける ([STORE AS...])

- ❶ プログラムに名前を付けて保存するには、**[STORE AS...]** ボタン (**[SHIFT]** + **[STORE]**) を押します。
- ❷ ディスプレイ上の **[ABC]** ボタンを押すと、アルファベットの列が表示されます。ダイヤルを使用して現在の位置の文字を選択します。ディスプレイ上の **[ABC]** ボタンを放すとカーソルが次に移動します。ダイヤルを使用してカーソルを自由に動かすことができます。ディスプレイ上の **[Ins]** ボタンを押すとカーソルの位置にスペースが挿入され、**[Del]** ボタンを押すと選択している文字が削除されます。



- ❸ プログラムにカテゴリーを割り当てるには、ディスプレイ上の **[Cat]** ボタンを押したままダイヤルを使用して、リスト内の20個のカテゴリーのいずれかを選択します。
- ❹ **[STORE]** ボタンを押すと、[STORE PROGRAM TO] 画面が表示されます。ダイヤルと **[PROGRAM]** ボタンを使用して場所を選択します。
- ❺ 適切な保存場所を選択したら、もう一度 **[STORE]** ボタンを押します。

※ プログラムの名前は、Nord Sound Manager を使用して付けることもできます。

KBD スプリット



Nord Piano 4のキーボードは2つのゾーンに分割できます。**[SYNT/PNO]** に設定すると左側にサンプル・シンセ・サウンド、右側にピアノ・サウンドが配置され、**[PNO/SYNT]** に設定するとこの配置が逆になります。

キーボード・スプリットの設定

[SET SPLIT] ボタン (**[SHIFT]** + **[KBD SPLIT]**) を押すと、キーボード・スプリットの設定ページがディスプレイに表示されます。

スプリット・ポジションを選択する

キーボード・スプリットの設定ページでディスプレイ上の **[Pos]** ボタン (パネル上の **[PROGRAM 1]** ボタン) を押します。ダイヤルを回して7つのキーボード・スプリット・ポジション (C3 ~ C6) が選択できます。キーボードの上にはLEDが付いており、どのスプリット・ポジションがオンになっているかが表示されます。

スプリット幅の設定

通常、2つのキーボード・ゾーンの間には即時適用され、各ゾーンに対して選択されたサウンド同士はオーバーラップしません。スプリット幅を設定することで、サウンド同士をミックスしたり、スプリット・ポイント上でクロスフェードをかけたりしてサウンドがスムーズに切り替わるようにできます。

キーボード・スプリットの設定ページでディスプレイ上の **[Width]** ボタン（パネル上の **[PROGRAM 2]** ボタン）を押します。ダイヤルを回して3種類の設定が選択できます。



Off : [Off] に設定するとサウンド間にクロスフェードがかかりません。

Sml : [Sml] に設定するとスプリット幅が 12 半音分になります。スプリット・ポイントより下のサウンドは、スプリット・ポイントの 6 音上まで影響し（フェード・アウトがかかり）、同様に、スプリット・ポイントより上のサウンドは、6 音下のサウンドまで影響します。

Lrg : [Lrg] に設定するとスプリット幅が 24 半音分になり、スプリット・ポイントの上下 12 音にクロスフェードがかかります。

[SHIFT]/[EXIT] ボタン



多くのコントロールにはもう 1 つの機能があり、**[SHIFT]** ボタンを押しながらボタンを押すかダイヤルを回すとその機能を使用できます。**[SHIFT]** ボタンで使用できる機能の名前は、各コントロールの下にプリントされています。例えば、**[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PROGRAM 2]** ボタンを押すと、サウンド・メニューが開きます。**[SHIFT]** ボタンは、メニューを終了するときや、保存操作を途中で中止するときにも使用します。

ライブ・プログラム



Nord Piano 4 には簡単にアクセスできる 5 つのライブ・プログラムがあります。他のプログラムとは異なり、ライブ・プログラムへのエディットは自動的に保存されます。ライブ・プログラムを終了するか本機の電源を切ると、手動で保存操作を行わなくてもすべてのエディットが保存されます。ライブ・プログラムを選択するには、**[LIVE MODE]** ボタンを押したあと、プログラム・エリアの **[1] ~ [5]** のいずれかのボタンを押します。

ライブ・プログラムは、通常の操作でプログラム・バンク内に保存できます。反対に、通常のプログラムをライブ・プログラムとして保存することもできます。

トランスポーズ・オン/セット

Nord Piano 4 では、プログラムごとに半音単位で ± 6 半音までトランスポーズできます。**[TRANSPOSE]** ボタンを押しながらダイヤルを回して値を設定します。**[TRANSPOSE]** ボタンを押すと、トランスポーズのオン/オフを切り替えることができます。トランスポーズ設定は、プログラムの一部として保存して呼び出すことができます。

※ **すべてのプログラムに影響するトランスポーズを設定するには、システム・メニューでトランスポーズ・パラメーターを使用します。**

モノ

[MONO] モード (**[SHIFT]** + **[TRANSPOSE]**) では、ステレオでサンプリングされたすべてのピアノがモノラルで再生されます。Nord のピアノ・サウンドのモノ・バージョンは、モノラルでも最適なサウンドを再現できるように特別に設計されています。

プログラム・ボタン

[PROGRAM] ボタンの **[1] ~ [5]** を使用して現在のプログラム・バンク内の 5 つのプログラム（ページ）を瞬時に選ぶことができます。これらのボタンは、メニュー設定を操作する際にはディスプレイ上のボタンとしても機能します。ディスプレイ上のボタンの機能について詳しくは、7 ページをご参照ください。

プログラムとは？

プログラムには、選択したピアノ・サウンドやサンプル・サウンドへの参照情報に加え、パネルで行ったすべての設定（マスター・レベルを除く）が含まれます。システム・メニュー、サウンド・メニュー、MIDI メニューで行った設定はプログラムには含まれません。

システム・メニュー、サウンド・メニュー、MIDI メニュー

[SYSTEM] ボタン (**[SHIFT]** + **[PROGRAM 1]**)、**[SOUND]** ボタン (**[SHIFT]** + **[PROGRAM 2]**)、または **[MIDI]** ボタン (**[SHIFT]** + **[PROGRAM 3]**) を押すと、システム・メニュー、サウンド・メニュー、MIDI メニューがそれぞれ開きます。利用できるすべてのメニュー設定については、22 ページをご参照ください。

[PROGRAM] ダイアル



ディスプレイの左にある **[PROGRAM]** ダイアルは、プログラムの選択、パラメーター値の設定、プログラム名の文字入力に使用します。**[SHIFT]** ボタンを押しながらダイヤルを回すと **リスト** 機能がオンになり、すべてのプログラムがリスト表示されます。

プログラムリストの [ABC] と [CAT]

プログラムをブラウズする際、**[LIST]** (**[SHIFT]** + **[PROGRAM]** ダイアル) ビューにはプログラムの概要が番号順に表示されますが（ディスプレイ上で **[Num]** が選択されている場合）、その他にも 2 種類のソート・モードがあります。それが **[Abc]** (**[PROGRAM 2]**) と **[Cat]** (**[PROGRAM 3]**) です。

[Abc] モードではリストがアルファベット順に表示され、[Cat] モードでは選択したカテゴリーのすべてのプログラムが表示されます。特定の文字またはカテゴリーを選択するには、「(▼)」記号で示されるように) ディスプレイ上の **[Abc]** または **[Cat]** ボタンを押したままダイヤルを回します。



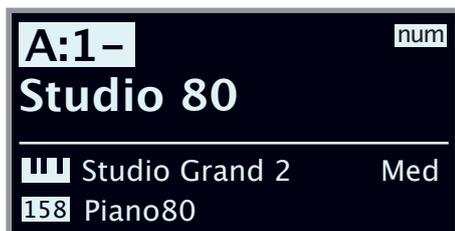
① リストのソート・モードは、ディスプレイ上の **[Num]** をもう一度押すまで維持されます。

数字パッドによるナビゲーション・モード

プログラムとバンクの切り替えは、デフォルトの「ページ・ベース」モードと数字パッド・モードという 2 種類のモードで行えます。使用するモードはシステム・メニューで設定します（22 ページを参照）。

数字パッド・モードでは、5 つのプログラムをページ上で直接切り替えるのではなく、**[PROGRAM]** ボタンの **[1] ~ [5]** を使用して現在のバンク内のプログラム番号（11 ~ 55）を入力します。例として、現在のバンク内のプログラム 12 を選択するには、まず **[PROGRAM 1]** ボタンを押して（ページ 1 が選択される）、次に **[PROGRAM 2]** ボタンを押します（そのページ内のプログラム 2 が選択される）。また、以下の点にも注意してください。

- デフォルトのナビゲーション・モードと同様、[PROGRAM] ダイアルを回すとプログラムが順次切り替わります。
- ディスプレイの右上に表示される「num」記号は、数字パッド・モードがオンになっていることを示しています。



上の図は、[PROGRAM 1] ボタンを押した場合の例です。ダッシュ (-) は、次の桁を入力してプログラム 11 ~ 15 を選択できることを表しています。

並べ替え

[ORGANIZE] ([SHIFT] + [PROGRAM 4]) ビューを使用すると、プログラム・バンク内でプログラムを移動したり「スワップ」したりできます。

[ORGANIZE] ビューを開く

- ① [ORGANIZE] ([SHIFT] + [PROGRAM 4]) を押します。



2つのプログラムを切り替える

スワップ操作を行うと、2つのプログラムの位置が入れ替わります。

- ② ダイアルを使用して、別のプログラムとスワップする必要があるプログラムを選択し、[Swap] を押します。



- ③ ダイアルを使用してスワップ先を選択し、[Ok] を押すとスワップ操作が完了します。[Undo] を押すと操作が中止されます。

プログラムを移動する

- ④ ダイアルを使用して、別の場所に移動する必要があるプログラムを選択し、[Move] を押します。



- ⑤ ダイアルを使用して移動先を選択し、[Ok] を押します。[Undo] を押すと操作が中止されます。

▲ 移動元と移動先の間のプログラムは1つ上または1つ下に移動し、影響を受ける範囲内のページに表示されるプログラムも変化します。

- ⑥ プログラムは、Nord Sound Manager を使用して並べ替えることもできます。

MIDI LED インジケーター



MIDI LED はマスター・レベル・ダイアルの下にあり、MIDI イン・ポートまたは USB を介して MIDI メッセージを受信すると点滅します。

PANIC



MIDI のセッティングを行っているときに本機の音が止まらなくなってしまった場合、または何らかの理由ですべてのサウンドを止める必要がある場合には、[PANIC] ([SHIFT] + [PROGRAM 5]) 機能を使用します。これは、内部的に「オール・ノート・オフ」メッセージを発生させ、そのとき入力されているコントロール・チェンジ・メッセージをリセットする機能です。

6 サンプル・シンセ



オン/オフの切り替えとレベルの選択

サンプル・シンセ・セクションは **[ON]** ボタンを押してオン/オフを切り替えます。サンプル・シンセ・セクションのボリュームは、**[LEVEL]** ダイアルでコントロールします。

OCTAVE UP/DOWN

[OCTAVE UP] (**[SHIFT]** + **[DYNAMICS]**) または **[OCTAVE DOWN]** (**[SHIFT]** + **[PEDALS]**) を使用すると、サンプル・シンセ・セクションを 1 オクターブ上または下 (± 12 半音) にトランスポートできます。オクターブ・シフトをキーボード全体に割り当てると、キーボード全体を 1 オクターブ上または下にトランスポートできます。1 つのゾーンだけに割り当てられる場合、トランスポートできる値は異なりますが、シンセサイザーの全範囲にいつでもアクセスできます。

[SUSTAIN] と [VOLUME]

[SUSTAIN] を押すと、接続したサステイン・ペダルをシンセ・セクションで使用できるようになります。

[VOLUME] を押すと、接続したコントロール・ペダルをシンセ・セクションのボリューム・コントロールとして割り当てることができます。

接続したペダルの設定方法について詳しくは、22 ページをご参照ください。

サンプル・シンセについて

多用途なサンプル・シンセ・セクションには最大 512MB のサンプルを保存できるほか、すぐに使用できるサンプルが多数搭載されています。また、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) の Nord Sample Library には数多くのサンプルが用意されており、無償のアプリケーション Nord Sound Manager を使用してそれらを本機にダウンロードできます。さらに、同じく Nord ウェブサイトからダウンロードできる無償のアプリケーション Nord Sample Editor を使用すれば、あらゆるサウンド・ソースからカスタム・サンプルを作成できます。

サンプルを選択する

[SAMPLE SELECT] ダイアルを使用して、利用可能なサンプルをスクロールします。選択したサンプルの場所と名前はプログラム・エリアのディスプレイに表示されます。保存操作を実行すると、サンプルの選択状態がプログラム内に保存されます。

リスト・ビュー

[SHIFT] ボタンを押しながら **[SAMPLE SELECT]** ダイアルを回すと、リスト内のすべてのサンプルをブラウズできます。デフォルトでは番号順に並んでいますが、サンプルは **[Cat]** ボタンを押すことでカテゴリ別に表示することもできます。また、**[◀]** ボタンと **[▶]** ボタンを使用すると、カテゴリの表示を素早く切り替えられます。



[Cat] ボタンを押したままにすると、利用できるすべてのカテゴリをブラウズしてリストから選択できます。

サウンドを形成する

ロードしたサンプルのサウンドと動作を微調整する方法がいくつかあります。この操作により、サンプルのダイナミクスや反応を調節できます。各サンプルには以下のパラメーターのプリセット値が用意されており、サンプルを選択すると自動的にロードされます。もちろん、これらのコントロールはすべて、必要に応じて手動で調節することもできます。

DYNAMICS

AMP

[AMP] 設定をオフにすると、サンプルは常にフル・ベロシティで再生されます。オンにすると、サンプル・シンセのサウンド・レベルは演奏時のベロシティに応じます。

FILTER

[FILTER] をオンにすると、サンプル・シンセにベロシティ・センス付きロー・パス・フィルターが適用されます。このフィルターは鍵盤を弾く強さに反応します。つまり、鍵盤を弱く弾けば柔らかいサウンドになり、強く弾けば明るいサウンドになります。

[ATTACK]、[SUSTAIN]、[DECAY/RELEASE]

これらのコントロールを使用すると、サンプル・シンセ・サウンドの輪郭、つまりエンベロープを設定できます。

[ATTACK] は、サンプルが最大レベルに達するまでの時間を設定します。**[DECAY/RELEASE]** は、サンプルがトリガーされてから消えるまでの時間を設定します。ノブを 12 時の位置に設定した場合 **[SUSTAIN]** モードとなり、サンプルは鍵盤を押している間中鳴り続けます。12 時の位置を越えると、ノブを右に回すほど鍵盤を放したあとのテイル部分が長くなります。

7 エフェクト



エフェクトをオンにする

エフェクトをオンにするには、各エフェクトの **[ON OFF]** ボタンを押します。ボタンの上の LED は、エフェクトがどのサウンド・エンジンに割り当てられているかを示します (**[PIANO]** または **[SYNTH]**)。 **[SOURCE]** ボタン ([SHIFT] + [ON/OFF]) を押すと、エフェクトがかかるサウンド・エンジンが切り替わります。

※ ソースは、[SOURCE] ボタンをダブルクリックして選択することもできます。

エフェクト 1

エフェクト1ユニットには6種類のモジュレーション・タイプのエフェクトがあり、セレクター・ボタンで切り替えます。

TREM (トレモロ)

[TREM] (トレモロ) は音量をモジュレートして周期的に変化させるエフェクトで、エレクトリック・ピアノで非常によく使われます。

エフェクトの強さは **[TREM 1]**、**[TREM 2]**、**[TREM 3]** (1+2) から選択できます。

PAN (オート・パン)

PAN はステレオの左右をサウンドがスムーズに行き来するエフェクトです。

エフェクトの強さは **[PAN 1]**、**[PAN 2]**、**[PAN 3]** (1+2) から選択できます。



WAH (ワウ)

[WAH] (ワウ) はあらゆるサウンドをアヒルの鳴き声に似た特徴的なサウンドにするエフェクトで、エレクトリック・ピアノやクラビネットに使うと非常に効果的です。このエフェクトは、[EFFECT 1] ノブを使用してフィルターのリケンシーをモジュレートさせるローパス・タイプのフィルターであり、スイープするときにサウンド・キャラクターが大きく変化します。

ワウ・エフェクトは入力信号の音量変化でフィルターのリケンシーをコントロールするペロシティ・センシティブ (エンベロープ・フォロー) なエフェクトです。

※ エフェクト1の **[CTRL PED]** モードがオンになっている場合、このエフェクトは [VOL/CTRL PEDAL] ジャックに接続したエクスプレッション・ペダルを使用して従来のワウ・ペダルとして使用することもできます。

RM (リング・モジュレーション)

[RM] (リング・モジュレーション) は2つの入力信号を互いに掛け算するエフェクトで、不協和なベルのような音になります。Nord Piano 4 のリング・モジュレーションでは、インストゥルメントからの信号とエフェクトに内蔵のサイン波を掛け算するようになっています。

リング・モジュレーションの量は固定されており、レートは [EFFECT 1] ノブでコントロールします。

CTRL PED

[CTRL PED] ボタン ([SHIFT] + [EFFECT 1] セレクター) を押すと、エフェクト1セクションのすべてのエフェクトを、コントロール・ペダル入力ジャックに接続したペダルでコントロールできるようになります。トレモロ・エフェクトとパン・エフェクトの場合、ペダルはエフェクトの量をコントロールします。これはパネルからはコントロールできません。

WAH と RM の場合、ペダルは [EFFECT 1] ノブと同じ働きをします。つまり、WAH の場合はペダルが従来のワウ・ペダルとして機能し、RM エフェクトの場合はモジュレーション・レートをペダルでコント

ロールできます。

エフェクト 2

エフェクト 2には、フェイザーとコーラス各 2 種類、フランジャーとヴァイブ・エフェクト各 1 種類を含むモジュレーション・エフェクトが用意されています。どのエフェクトも、[EFFECT 2] ノブでエフェクトの周期をコントロールします。

PHAS 1&2 (フェイザー)

[PHAS] (フェイザー)・エフェクトはいわゆるスイープ・サウンドが特徴的で、エレクトリック・ピアノによく合うエフェクトです。Nord Piano 4 のデジタル・フェイザーは、Bi-Phase や Small Stone といったクラシック・フェイザーをベースにしています。

FLANG (フランジャー)

[FLANG] (フランジャー) は強烈なコム・フィルター効果を生み出すエフェクトで、サウンドに反響と「うねり」を加えます。

CHOR 1&2 (コーラス)

様々な用途に使用できる [CHOR] (コーラス)・エフェクトは、モジュレーションをかけたオーディオ信号のコピーを複数ブレンドすることでサウンドに「広がり」を加えます。また、設定値を高くすれば強いデチューンをかけることもできます。コーラスは [CHOR1] と [CHOR2] の 2 種類あり、2 つ目のエフェクトの方がはっきりとした効果を得られます。

VIBE (ヴァイブ)

[VIBE] (ヴァイブ)・エフェクトは伝統的なフット・ペダルのエフェクトからヒントを得たもので、ピッチベンドとフェイザーの両方をかけたようなサウンドになります。このエフェクトは、一般的なフェイザーとは異なる方法でフェイズ・フィルターを多段階に配列したものです。

DEEP

[DEEP] モード ([SHIFT] + [EFFECT 2] セレクター) をオンにすると、エフェクト 2 のあらゆるエフェクトのモジュレーション量が増加します。

ディレイ

ディレイは、リピート・エコーを作り出すエフェクトです。ディレイ・タイムを設定するには、[TEMPO] ボタンをタップするか、[TEMPO] ボタンを押しながらプログラム・セクション・ダイヤルを使用してテンポを設定します。

[FEEDBACK] ボタンでディレイを繰り返す量 (タップ) を設定します。最も低い値 (LED は点灯しない) に設定すると最初のタップだけが聴こえ、**1**、**2**、**3** に設定すると、数字が大きくなるほどフィードバック・テイルが長くなります。

[DRY WET] ノブで原音とディレイ音のバランスを調整します。

TEMPO TAP

[TAP] ボタンを使用して曲のテンポに合ったディレイ・タイムを設定することができます。欲しいディレイ・タイムのテンポを [TEMPO] ボタンで数回叩



くと、あとは自動的にディレイ・タイムが調整されます。

イコライザー

トレブル、ミッド、ベースの 3 バンド・イコライザーです。各バンドの周波数は**トレブル**が 4kHz、**ミッド**は 200Hz ~ 8kHz、**ベース**は 100Hz です。ミッド周波数は [FREQ] ノブを使用して設定できます。ブースト/カット量は ± 15dB です。



AMP/COMP

[AMP/COMP] ユニットには、高度なアンプ・シミュレーターとスピーカー・キャビネット・シミュレーター、多用途なチューブ・スタイルのオーバードライブ・エフェクト、便利なコンプレッサー・エフェクトがあります。ドライブやコンプの量は [DRIVE/COMP] ノブで調整できます。LED はオーバードライブがかかっているかどうかを示し、コンプレッサーが作動すると点灯します。

アンプ・モデル

3 種類のアンプ/スピーカー・シミュレーションがあり、それぞれ次のような特徴があります。

SMALL: エレクトリック・ピアノに組み込まれたチューブ・アンプとスピーカーのシミュレーション

JC: クラシックなソリッドステート・アンプとスピーカー・キャビネットのシミュレーション

TWIN: クラシックなツイン・スピーカー・チューブ・アンプとキャビネットのシミュレーション

DRIVE

[DRIVE] 設定は、微妙なサチュレーションから鋭いディストーションまで幅広く使えるチューブ・スタイルのオーバードライブ・エフェクトです。

COMP

[COMP] (コンプレッサー) エフェクトはサウンドのダイナミック・レンジを低減することで、低いレベルの信号を持ち上げ、高いレベルの信号を下げます。これにより、タイトで迫力のあるサウンドになり、特にライブでのミックスがしやすくなります。



リバーブ

リバーブは、様々な音響環境で発生する自然な残響音をシミュレートするエフェクトです。リバーブは、アクティブなすべてのサウンド・エンジンに常に適用される「グローバル」なエフェクトです。

ホール・リバーブは大ホールの音響特性をシミュレートしたもので、長い残響音が特徴です。**ステージ**・リバーブはそれよりもやや短めの残響音、**ルーム**・リバーブはそれよりもさらに残響音が短くなります。

[BRIGHT] モード ([SHIFT] + [REVERB] セレクター) では、リバーブ信号の高周波数部分がより多く残ります。

[DRY WET] コントロールでリバーブ音と原音のバランスを調整します。



8 MIDI

MIDI 機能

Nord Piano 4 は、外部音源などのハードウェアやソフトウェアをマスター・キーボードとしてコントロールできます。また、Nord Piano 4 を独立したキーボードや MIDI 機器からコントロールすることもできます。

MIDI チャンネル

MIDI チャンネルを使用すると、MIDI 情報の送受信を同時に行えます。本機の内蔵音源を使用しているのと同様の感覚でキーボード演奏を行えるほか、キーボード、ペダル、パネル上の操作を別の MIDI 機器やシーケンサーに送信できます。

※ MIDI メッセージは USB 接続と MIDI 入力接続の両方で同時に送受信されます。

本機での演奏を MIDI シーケンサーや DAW にレコーディングする

ペダル操作やパラメーター調節を含め、本機での演奏を DAW や MIDI シーケンサーにレコーディングする方法を説明します。

- ① USB 経由で接続する場合は Nord Piano 4 の USB MIDI ドライバーを使用するように、また、5 ピン MIDI コネクタ経由で接続する場合は対応する MIDI インターフェイスを使用するように、DAW またはシーケンサーを設定します。
 - ② DAW またはシーケンサーに入力された MIDI 信号を、本機 MIDI チャンネルとして再ルーティングします。
 - ③ システム・メニューに入り、ローカルをオフにします。
 - ④ レコーディングで使用したい本機のプログラムを選択します。
 - ⑤ シーケンサーのレコーディングを開始します。
- ❶ パネル上のトランスポーズ機能またはシステム・メニューの「Global Transpose」設定でトランスポーズ値が設定されている場合、MIDI への効果は「Transpose MIDI at」の設定によって異なります (23 ページを参照)。

MIDI メッセージ

Nord Piano 4 では、次の MIDI メッセージを送受信できます。

ノート・オン/オフ

- ベロシティを含むノート・オンおよびノート・オフ・メッセージの送受信を行います。

コントローラー

- コントロール・チェンジ・メッセージの送受信設定は、システム・メニューで行います。23 ページをご参照ください。

- コントロール/エクスプレッション・ペダルをコントロール・ペダル・インプットに接続している場合、コントローラー 11 (CC11: エクスプレッション) の送受信を行います。
- サスティン・ペダルをサスティン・ペダル・インプットに接続している場合、コントローラー 64 (CC64: サスティン・ペダル) の送受信を行います。
- 本機のフロント・パネル上にあるほとんどのノブやボタンもコントロール・チェンジ・メッセージとして送受信でき、パネル上の操作をシーケンサーにレコーディングすることができます。MIDI コントロール・チェンジ・メッセージの一覧は、25 ページをご参照ください。

プログラム・チェンジ

プログラム、ライブ・プログラム、ピアノ、またはサンプルをロードすると、グローバル MIDI チャンネルにプログラム・チェンジ・メッセージが送信されます。このとき、各コンテンツの種類は Bank MSB の値で識別されます。反対に、プログラム・チェンジ・メッセージを受信した場合は、Nord Piano 4 上の対応するコンテンツが選択されます。このメッセージは以下の表に示す 3 つの部分で構成されています。

	プログラム	ピアノ	サンプル	ライブ
Bank MSB (CC# 0)	0	3	4	6
Bank LSB (CC# 32)	0 ~ 15	0 ~ 5	0 ~ X	0 ~ 1
プログラム・チェンジ	0 ~ 24	0 ~ X	0 ~ 49	0 ~ 3

X の値は、メモリー内のピアノまたはサンプルの数によって異なります。

- ❶ Nord Piano 4 に届いたプログラム・チェンジ・メッセージにバンク・セレクト・メッセージが含まれていない場合、そのメッセージは現在選択されているプログラムまたはライブ・バンクに適用されます。

プログラム・チェンジ・メッセージをグローバル・チャンネルで送受信するかどうかは、システム・メニューで設定できます。詳しくは 23 ページをご参照ください。

ローカル・コントロールのオン/オフ

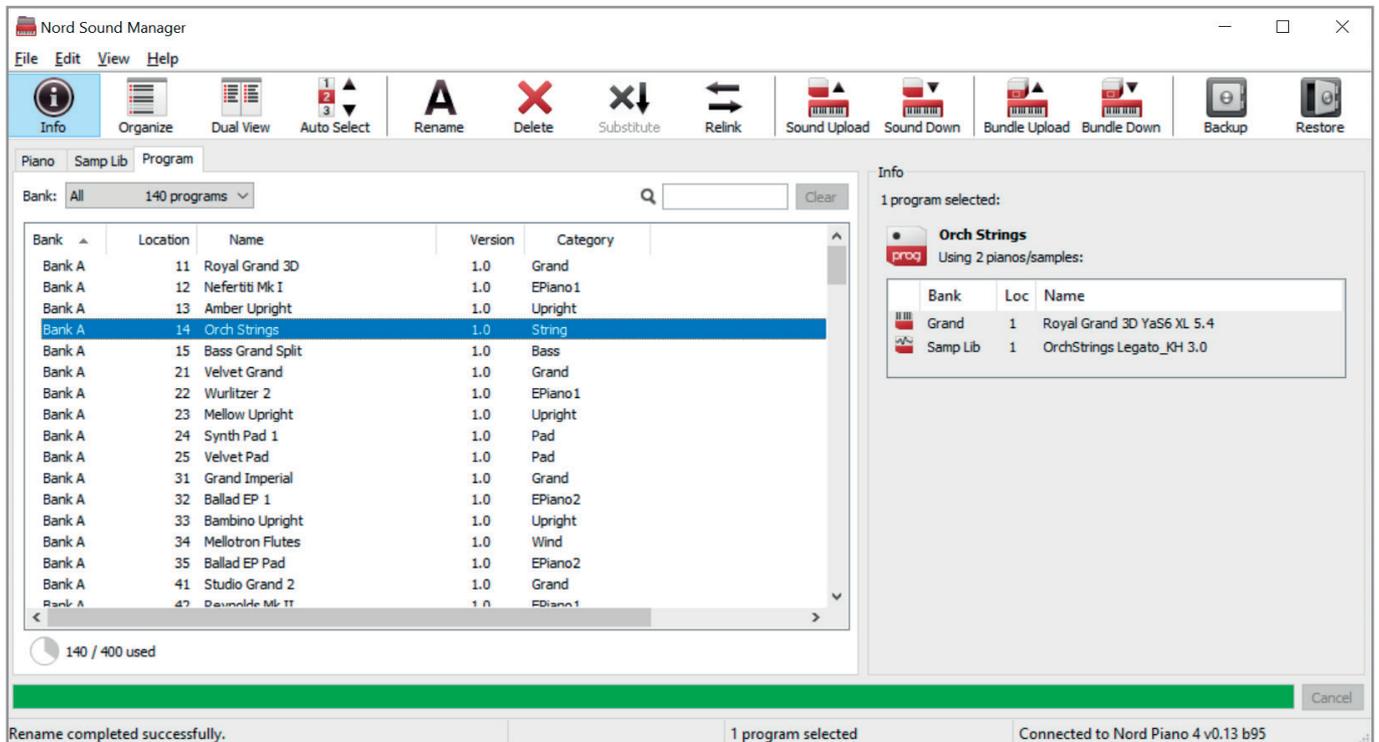
ローカル・コントロールをオフに設定した場合、Nord Piano 4 のキーボードとパネルはサウンド・エンジンから「切り離されます」。オフ設定は、インストゥルメントを MIDI ループに設定する場合 (例えば、DAW やシーケンサーと一緒に使用する場合) に使用します。ローカル・コントロールのオン/オフ設定はシステム・メニューで行います (22 ページをご参照ください)。

PANIC



MIDI のセッティングを行っているときに本機の音が止まらなくなってしまった場合、または何らかの理由ですべてのサウンドを止める必要がある場合には、**[PANIC]** ([SHIFT] + [PROGRAM 5]) 機能を使用します。これは、内部的に「オール・ノート・オフ」メッセージを発生させ、そのとき入力されているコントロール・チェンジ・メッセージをリセットする機能です。

9 NORD SOUND MANAGER



NORD SOUND MANAGER について

Nord Sound Manager は Nord 製品のユーザーにとって非常に重要なアプリケーションです。Nord Sound Manager を使用することで、Nord Piano 4 の様々なメモリー・エリア内のコンテンツの並べ替え、変更、バックアップなどを実行できます。Nord Sound Manager では主に次のようなタスクを実行します。

- プログラムに名前を付ける / 並べ替える
- ピアノ・パーティションに新しいピアノ・サウンドをダウンロードする
- サンプル・パーティションに新しいサンプルをダウンロードする
- Nord Piano 4 からコンピュータにプログラムをアップロードする
- プログラムおよび関連付けられたピアノ・ファイルとサンプル・ファイルを含むバンドルをアップロードする
- インストゥルメント全体のバックアップを実行する
- インストゥルメント全体を以前の状態に戻す

Nord Sound Manager およびこのアプリケーションのユーザー・マニュアルは、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) の「Software」ページからダウンロードできます。

動作環境

Mac OS X 10.6 以降

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 10

Windows でご利用の場合は、Nord USB Driver バージョン v3.0 以降をインストールする必要があります。

10 メニュー

システム・メニュー、サウンド・メニュー、MIDIメニューで行った設定はその場で有効になり、次に変更するまで維持されます。

- ❶ 例外として、ローカル・コントロール MIDI 設定だけは Nord Piano 4 を起動するたびに「オン」の状態に戻ります。

各メニューを開くには、**[SHIFT]** を押しながら **[SYSTEM]**、**[SOUND]**、または **[MIDI]** ([PROGRAM] ボタンの [1]、[2]、[3]) を押します。メニューの切り替えはディスプレイ上の **[◀]** ボタンと **[▶]** ボタンで行い、設定を変更するには **[PROGRAM]** ダイアルを回します。その他の設定がある場合にもディスプレイ上のボタンを使用して表示できます。メニューを終了するには **[EXIT]** ([SHIFT]) ボタンを押します。

システム・メニュー

1 - MEMORY PROTECT

プログラムが誤って上書きされないように、Nord Piano 4 の出荷時にはメモリー・プロテクトがオンに設定されています。メモリー・プロテクトをオフに設定すると、保存操作が可能になります。メニュー設定とライブ・プログラムはこの設定の影響を受けません。

レンジ：On (デフォルト値)、Off

2 - NUMPAD PROGRAM SELECT

プログラムは2つの方法で選択できます。デフォルトでは、標準の「ページ・ベース」モードが使用されますが、「数字パッド」の入力で選択することもできます。[NUMPAD PROGRAM SELECT] をオンにすると、[PROGRAM] ボタンの [1] ~ [5] を使用して数字を入力することで、現在のバンク内の25個すべてのプログラム (11-55) にアクセスできます。[NUMPAD PROGRAM SELECT] をオフにすると、[PROGRAM] ボタンの [1] ~ [5] が現在のページ内の5つのプログラムに対応します。

レンジ：Off (デフォルト値)、On

3 - GLOBAL TRANSPOSE

この設定では Nord Piano 4 全体のトランスポーズを半音単位でセットします。ここで設定した値は、プログラムごとに設定、保存できるパネル上で設定したトランスポーズ値に加算されます。

レンジ：± 6 半音 (デフォルト値 = 「none」)

4 - FINE TUNE

Nord Piano 4 のピッチを細かい精度でチューニングします。

レンジ：± 50 セント (デフォルト値 = 0)

5 - OUTPUT ROUTING MODE

[Stereo] モードでは、すべてのサウンドが両方のオーディオ出力に送信されます。[Piano:L Synth:R] に設定すると、ピアノ・サウンドが左の出力に、サンプル・シンセ・サウンドが右の出力に送られます。

レンジ：Stereo (デフォルト値)、Piano:L Synth:R

6 - SUSTAIN PEDAL TYPE

[SUSTAIN PEDAL] ジャックに接続されたペダルの種類を選択します。サステイン・ペダルには極性があり、ペダルと本機の極性が合っていないとペダルを踏んでいないときにサステインがかかってしまい、踏んだときにサステインが止まります。このような場合、このパラメーターで極性を反転させます。[Auto] の場合は、本機がペダルの極性を自動的に検出します。

レンジ：Triple、Open、Closed、Auto (デフォルト値)

7 - CONTROL PEDAL

TYPE

Nord Piano 4 は多くのブランドのコントロール・ペダルを **[CONTROL PEDAL]** インプットに接続できます。コントロール・ペダルを使用する際、このパラメーターで主な各ペダルの特性に合わせます。

接続したペダルをこのメニューで使用している場合、接続したペダルのレンジを示すパーセンテージがディスプレイに表示されません。

レンジ：Roland EV7 (デフォルト値)、Yamaha FC7、Korg、Fatar/Studiologic

GAIN

[CONTROL PEDAL] インプットに接続したペダルを完全に踏み込んだ状態でも、コントロールするパラメーターの最大値や最大設定に達しない場合、この設定でペダル信号をアップさせることができます。

レンジ：1 ~ 10

サウンド・メニュー

1 - PIANO PEDAL NOISE LEVEL

ダイナミック・ペダル・ノイズ機能のレベルを設定します。この機能は、Nord Piano 4 に Nord Triple Pedal が接続されている場合に、対応するピアノでオンにできます。

レンジ：± 6dB (デフォルト値 = 0dB)

2 - PIANO STRING RES LEVEL

ストリング・レゾナンス機能をオンにした場合の、ストリング・レゾナンスのレベルを設定します (アコースティック・ピアノ・モデルのメディアム、ラージ、エクストラ・ラージ・サイズでのみ使用可能)。

レンジ：± 6dB (デフォルト値 = 0dB)

MIDIメニュー

1 - LOCAL CONTROL

Nord Piano 4 の鍵盤とパネルで内部サウンド・エンジンとプログラムを制

御するか、またはMIDI信号のみを送信するか(ローカル・コントロール)の設定をします。ローカル・コントロール・オンが通常のモードです。ローカル・コントロール・オフの場合は、フロント・パネルとキーボードはMIDI信号のみを送信します。

レンジ：On (デフォルト値)、Off

- ❶ このパラメーターの設定は本機の電源投入時に必ず「On」になります。

2 - MIDI CHANNEL

Nord Piano 4 の送受信 MIDI チャンネルをこのパラメーターで設定します。この MIDI チャンネルは、すべてのキーボード、ペダル、パネル上の操作を MIDI 信号として送信するチャンネルです。また、本機全体を MIDI でコントロールするときもこのチャンネルを使用します。

レンジ：1 ~ 16、Off (デフォルト値 = 1)

3 - CONTROL/PROGRAM CHANGE MODE

MIDI CONTROL CHANGE

MIDI コントローラー・メッセージを、MIDI チャンネルで送受信するかどうかを設定します。

レンジ：Off、Send、Receive、Send & Receive (デフォルト値)

MIDI PROGRAM CHANGE

MIDI プログラム・チェンジ・メッセージを、MIDI チャンネルで送受信するかどうかを設定します。

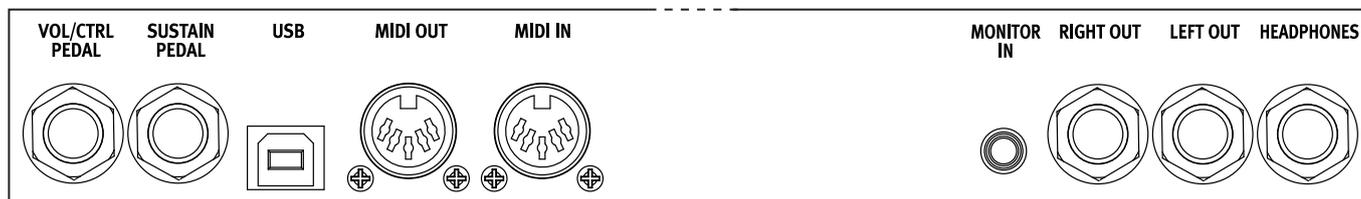
レンジ：Off、Send、Receive、Send & Receive (デフォルト値)

4 - TRANSPOSE MIDI AT

[In]に設定すると、アクティブなトランスポーズ値(グローバル/プログラムごと設定)が受信されるMIDIデータにのみ適用され、送信されるMIDIには適用されません。[Out]モードでは、送信されるMIDIノートのみがトランスポーズされ、受信するMIDIノートはトランスポーズされません。

レンジ：In (デフォルト値)、Out

11 接続について



オーディオの接続

オーディオ接続について：すべての接続が済んでからアンプの電源を入れてください。アンプの電源は必ず最後に入れ、電源を切るときは必ず最初にアンプまたはアクティブなスピーカーの電源を切ってください。

⚠ Nord Piano 4 を大音量で使用すると、聴覚を損なう恐れがあります。

HEADPHONES

1/4 インチのステレオ・ヘッドフォン・ジャックです。アウトプット・ルーティングの設定に関係なく、オーディオは常にヘッドフォン・アウトプットから出力されます。

LEFT OUT、RIGHT OUT

アンプやレコーディング機器に使用する 1/4 インチのアンバランス・ライン・レベル出力です。Nord Piano 4 は、左右のオーディオ・チャンネルに個別の信号経路を持つステレオ・インストゥルメントです。

出荷時には、左右のアウトプットからオーディオを出力するように構成されています。その他の設定については、22 ページのシステム・メニューのセクションをご参照ください。

MONITOR IN

スマートフォン、タブレット、コンピュータなどのデバイスを Nord Piano 4 に接続するための 1/8 インチ・ジャックです。事前に録音した音楽やメトロノームに合わせて演奏やリハーサルを行ったり、ステージ上で追加のサウンド・ソースを使用したりする場合に便利です。モニター・インで入力された信号は、ヘッドフォン・アウトプットと左右のアウトプットにルーティングされます。

⚠ Nord Piano 4 のマスター・レベル・コントロールは、モニター・イン信号のレベルには影響しません。

MIDI の接続

MIDI IN

コントローラー・キーボード、シーケンサー、コンピュータなどの外部 MIDI 機器から送信された MIDI データを受信するための 5 ピン MIDI イン接続です。

MIDI OUT

外部の MIDI 音源モジュールやコンピュータなどのデバイスに MIDI データを送信する 5 ピン MIDI アウト接続です。

USB 接続

USB ポートは Nord Piano 4 をコンピュータに接続する際に使用します。MIDI 送信や OS アップデートのほか、Nord Sound Manager や Nord Sample Editor といったアプリケーションの接続に使用できません。これらのアプリケーションと最新の OS は、Nord ウェブサイト (www.nordkeyboards.com) からいつでもダウンロードできます。

❗ USB MIDI と標準の 5 ピン MIDI コネクターは同時に使用できません。メニューなどでどちらかを選択する必要はありません。

ペダル接続

SUSTAIN PEDAL

一般的なあらゆるタイプのサスティン・ペダルを接続するための 1/4 インチ・コネクターです。付属の Nord Triple Pedal の接続にも使用します。サスティン・ペダルの極性は自動的に検出することも、システム・メニューで手動で設定することもできます (22 ページを参照)。

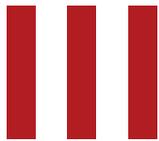
VOL/CTRL PEDAL

ピアノやサンプル・シンセのボリューム、エフェクト 1 の量などのコントロールに使用する、コンティニューアス・タイプのエクスプレッション・ペダルを接続するための 1/4 インチ・コネクターです。一般的なエクスプレッション・ペダルのほとんどのメーカーとモデルに対応しています。使用するエクスプレッション・ペダルはシステム・メニューで選択できます (22 ページを参照)。

付録：MIDI コントローラー・リスト

Nord Piano 4/パラメーター	MIDI CCナンバー
Bank Select MSB Program	0
Bank Select MSB Live	6
Bank Select MSB Piano	3
Bank Select MSB Sample	4
Bank Select LSB	32
Volume	7
Pan	10
Sustain	64
Soft Pedal	67
Sostenuto	66
Ctrl Pedal (Expression)	11
KBD Split	3
Piano Enable	33
Piano Level	34
Piano Octave Shift	35
Piano Sustain Pedal	49
Piano Ctrl Pedal	50
Piano EQ	40
Piano Acoustics	52
Piano KBD Touch	51
Piano Pedal Noise	53
Sample Synth Enable	42
Sample Synth Level	43
Sample Synth Octave Shift	44
Sample Synth Sustain Pedal	45
Sample Synth Ctrl Pedal	46
Sample Synth Attack	68
Sample Synth Decay/Release	69
Sample Synth Amp	72
Sample Synth Filter	73
Effect 1 Enable	82
Effect 1 Type	83
Effect 1 Source	84
Effect 1 Ctrl Ped	85
Effect 1 Rate	86

Nord Piano 4/パラメーター	MIDI CCナンバー
Effect 2 Type	87
Effect 2 Source	88
Effect 2 Deep	89
Effect 2 Rate	90
Effect 2 Enable	91
Delay Source	92
Delay Dry/Wet	93
Delay Rate	94
Delay Feedback	95
Delay Enable	97
Amp/Comp Type	100
Amp/Comp Drive	117
Amp/Comp Enable	118
Amp/Comp Source	119
EQ Bass	102
EQ Mid	103
EQ Treble	104
EQ Enable	105
EQ Source	106
EQ Mid Frequency	107
Reverb Enable	116
Reverb Type	115
Reverb Dry/Wet	113
Reverb Bright	112



索引

記号・英数字

[PROGRAM] ダイアル 14
 Amp (サンプル・シンセ) 16
 Attack (サンプル・シンセ) 16
 Bass (イコライザー) 18
 CC (MIDI メニュー) 23
 Decay/Release (サンプル・シンセ) 16
 Dyno 1 12
 Dyno 2 12
 Exit (ボタン) 14
 Filter (サンプル・シンセ) 16
 Fine Tune 22
 Gain (Ctrl Pedal) 22
 Global Transpose 22
 KBD Touch 11
 LEFT OUT、RIGHT OUT 24
 MIDI 20
 MIDI IN 24
 MIDI LED インジケーター 15
 MIDI OUT 24
 MIDI コントローラー・リスト 25
 MIDI メッセージ 20
 Mid (イコライザー) 18
 Nord Piano Library 10
 Nord Sound Manager 21
 Nord Triple Pedal 11
 OS (オペレーティング・システム) 5
 Piano String Res Level 22
 SHIFT (ボタン) 14
 Sound Menu 22
 Sustain (サンプル・シンセ) 16
 Transpose MIDI At (MIDI メニュー) 23
 Treble (イコライザー) 18
 Trem (トレモロ) 17
 Triple Pedal 11
 Type (Ctrl Pedal) 22
 USB 接続 24
 VOL/CTRL PEDAL 24
 Wah (ワウ) 17
 www.nordkeyboards.com 5

ア行

アウトプット・ルーティング 22
 アップライト 11
 アンプ・モデル 18
 イコライザー (ピアノ) 12
 移動 (並べ替え) 15
 ヴァイブ 18
 エフェクト 1 17
 エフェクト 2 18
 エフェクト・セクション 17
 エレクトリック (ピアノ) 11
 オーディオ接続 24

カ行

キーボード・スプリット 13
 クラビネット 11
 グランド 11
 コーラス 1&2 18
 コンプレッサー 18

サ行

サスティン・ペダル 22
 数字パッド (プログラム選択モード) 14
 ストリング・レゾナンス 11
 スプリット 13
 スプリット・ポジション 13
 スワップ (並べ替え) 15
 接続 24
 ソステヌート 12
 ソフト・ペダル (ウナ・コルダ) 12
 ソフト・リリース 11

タ行

タップ・テンポ (ディレイ) 18
 ディスプレイ上のボタン 7, 22
 ディレイ (エフェクト) 18
 デジタル (ピアノ) 11
 トランスポーズ 14

ナ行

名前を付けて保存 13
 並べ替え 15

ハ行

ハーフ・ペダリング 11
 パニック 15, 20
 パネル MIDI コントロール 20
 ピアノ 10
 ピアノ・インフォ 10
 ピアノ・サイズ 10
 ピアノ・セレクト 10
 ファクトリー・プリセット 5
 フェイザー 1&2 18
 フランジャー 18
 プログラム 14
 プログラム・チェンジ 20
 プログラム (ボタン) 14
 ペダル・ノイズ 11
 ヘッドフォン 24

マ行

メニュー 22
 メモリー・プロテクト 22
 モデル (ピアノ) 10
 モニター・イン 24
 モノ 14

ラ行

ライブ・モード 14
 リスト・ビュー (ピアノ) 11
 リバープ 18
 ローカル・コントロール (MIDI) 20, 22

仕様

一般仕様

- ・ マスター・レベル・コントロール
- ・ プログラム：400 (5 プログラム × 5 ページ × 25 バンク)
- ・ ライブ・モード：5 ライブ・プログラム
- ・ プログラムブル・トランスポーズ：±6 半音
- ・ USB MIDI 機能
- ・ シームレス・トランジション
- ・ スプリット・ポイント・クロスフェードのクロスフェード・オプション：3 (ラージ、スモール、オフ)
- ・ プログラムのオーガナイズ機能
- ・ トリプル・センサー・キーボード+バーチャル・ハンマー・アクション・テクノロジー

ピアノ・セクション

- ・ メモリー容量：1GB (Nord Piano Library 用)
- ・ Nord Sound Manager を使用して、すべてのサウンドを入れ替え可能 (Mac/Win)
- ・ 最大同時発音数：120
- ・ カテゴリー：グランド、アップライト、エレクトリック、デジタル、レイヤー、クラビネット/ハーブシコード
- ・ ベロシティ・カーブ：3 種類
- ・ ピアノ・フィルター
- ・ クラビネット EQ コントロール
- ・ アドバンスド・ストリング・レゾナンス (第 2 世代)：グランド・ピアノ、アップライト・ピアノで使用可能
- ・ ソフト・リリース機能を選択可能
- ・ 付属の Nord Triple Pedal によるダイナミック・サスティン・ペダル・アクション
- ・ ペダル・ノイズ：選択式 (グランド、アップライト、エレクトリック・ピアノ 1)、音量調節可能

サンプル・シンセ・セクション

- ・ メモリー容量：512MB (Nord Sample Library 用)
- ・ Nord Sound Manager を使用して、すべてのサンプルを入れ替え可能 (Mac/Win)
- ・ 最大同時発音数：30 ボイス以上
- ・ アタック、ディケイ/リリース・コントロール
- ・ ベロシティ・センス付きロー・パス・フィルターとダイナミック・レンジ：選択式

エフェクト・セクション

- ・ エフェクト 1：トレモロ、パン、ワウ、リング・モジュレーター
- ・ エフェクト 2：フェイザー × 2、コーラス × 2、フランジャー、ヴァイブ
- ・ オーバードライブ付きチューブ・アンプ・シミュレーション
- ・ スピーカー・シミュレーション：3 タイプ (JC、Twin、Small)
- ・ コンプレッサー
- ・ イコライザー：3 バンド (トレブル、ミッド、ベース)、各バンドとも ±15dB のブースト/カット可能、ミッドは中心周波数可変タイプ)
- ・ ディレイ：レイト、アマウント、およびミックス (ドライ/ウェット) コントロール、ステレオ・ピンポン、タップ・テンポ
- ・ リバース：3 アルゴリズム、ブライト・モード付き

接続端子

- ・ オーディオ出力：LEFT OUT、RIGHT OUT、標準ジャック (アンバランス)
- ・ ヘッドフォン出力：標準ステレオ・ジャック
- ・ モニター入力：ミニステレオ・ジャック
- ・ サスティン・ペダル入力：標準ジャック (付属ペダルまたはモーメンタリー・タイプのペダルをご使用ください)
- ・ コントロール・ペダル入力：TRS ジャック
- ・ MIDI：MIDI IN、MIDI OUT (5 ピン DIN コネクター)
- ・ USB：タイプ B コネクター
- ・ 電源コネクター：IEC C14

付属品

- ・ 取扱説明書
- ・ 電源コード
- ・ Nord Triple Pedal
- ・ Nord Piano Library 収録 DVD

オプション

- ・ Nord Keyboard Stand EX
- ・ Nord Soft Case
- ・ Nord Music Stand V2

外形寸法

- Nord Piano 4 : 1,287 (W) × 340 (D) × 121 (H) mm
- Nord Triple Pedal : 264 (W) × 224 (D) × 70 (H) mm

重量

- Nord Piano 4 : 18.5kg
- Nord Triple Pedal : 2kg

仕様は予告なく変更することがあります。

本書は OS バージョン : 1.18 時に作成しています。今後のアップデートで機能の拡張やユーザー・インターフェースが変更になる場合があります。

本書に記載のブランド名、製品名はすべて各保有者の商標または登録商標であり、Clavia 社とは一切の関係はありません。また、これらの製品名、ブランド名は本機の性能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

